

原発事故 初期の政策判断と提言

科学的判断欠けていた／政治決断すべき問題先送り

元担当相 細野氏が「自己調査報告」出版



自著「東電福島原発事故自己調査報告」を手に語る細野氏＝三島市内の事務所

東日本大震災に伴う東京電力福島第1原発事故後に原発事故担当相として現場と対峙(たいじ)した細野豪志衆議院議員(静岡5区)が事故から10年を前に、当時起こったことの本相を追求し今も残る課題解決の道を探る「東電福島原発事故自己調査報告」(開沼博さん編集)を執筆、徳間書店から出版した。初期の政策判断が福島復興に与えた影響を評価し、処理水や甲狀腺検査、除染土など乗り越えるべき課題について解決策を提言した。

処理水の海洋放出準備を

除染土安全なもの再利用

田中俊一・初代原子力規 ．ふたば未来学園中高副校
制委員会委員長、南郷市兵 長、佐藤雄平・前福島県知

事ら10人以上のキーパーソンとてくれ」という言葉が自分との対話を基に、社会学を奮い立たせてくれたと振る者の開沼さん、福島県のシリ返った。
「ヤナリススト林智裕さんと残された課題について、意見をふつけ合った。3章 思い切った解決策を提言し構成341の大作。第1 1。処理水について「タン章で当時を振り返り、第2 2。クに保管し続けるという選章で福島未来を展望、第 3。折肢はあり得ない」「海洋3章で今も残る課題の解決放出への準備を開始しなければならぬ」と断言した。

田中委員長との対話を通 除染土については安全が確 認されたものを道路建設や 的判断が欠けていた」「政 埋め立てなどに再利用する 治決断すべき問題を先送り 案を示した。甲狀腺検査は、 してしまった」などの課題 在り方を早急に見直すよう を浮き彫りにした。南郷副 訴えた。

校長の「開校から6年たつ 細野氏は「10年前、福島 校の卒業生の多くが何 がここまで再生するとは想 らかの形で福島に関わりた 像でできなかった。よくこ いて考えている」という言 まで来たと思う。ただ、処理 葉を受け、未来に希望を抱 いた。

佐藤前知事と初めて会っ ことを知ってもらいたい。 た時に言われた「福島が地 ゼロリスクはない。その考 元だと思つて大臣を務めて え方は新型コロナウィルス くれ」という言葉、地元支 対策にも当てはまる。これ 援者の「静岡に戻る時間が から10年かけて、結果を出 あつたら福島に行つて働い したい」と思いを語った。